

# 2023年度第3四半期 決算説明会資料

2024年2月13日

100年をつくる会社  
 鹿島

Copyright © 2024 KAJIMA CORPORATION All Rights Reserved.

- 2023年度第3四半期の決算概要について説明します。

1. 決算サマリー
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況
4. トピックス

- 2023年度第3四半期決算のサマリー、業績ハイライト、事業別の概況及びトピックスを説明します。

## 2023年度第3四半期決算

### • 連結売上高は前年同期比13.8%増収、営業利益は9.5%増益

- 単体業績は、建築事業の順調な進捗及び開発事業における物件売却による利益計上を主因に増収増益
- 国内関係会社は、開発系関係会社が保有する物件の売却が計画どおりに実現し、増収増益
- 単体及び国内関係会社の増益が海外関係会社の減益を補い、連結営業利益は増益
- 通期予想は変更せず、連結当期純利益は1,070億円の見込み

### • 連結建設受注高は前年同期比19.8%増の2兆923億円

- 国内の建設需要は強く、大型半導体工場や再開発案件などの受注を主因に前年同期を上回る
- 海外受注高は、欧米における大型工事の受注により大幅増加

- 第3四半期決算のポイントについてです。
- 連結売上高は、前年同期から13.8%の増収となり、営業利益は9.5%の増益となりました。  
単体業績は、建築事業の順調な進捗と売上総利益率の改善に加え、開発事業における物件売却による利益計上を主因に増収増益となりました。  
国内関係会社は、開発系関係会社が保有する物件の売却が計画どおりに実現し、増収増益となりました。  
単体及び国内関係会社の増益が、海外関係会社の減益を補い、連結営業利益は増益となりました。  
通期予想は変更せず、連結当期純利益は1,070億円を見込んでいます。
- 連結建設受注高は、前年同期比19.8%増の2兆923億円となりました。  
国内の建設需要は強く、大型半導体工場や再開発案件などの受注を主因に前年同期を上回りました。  
海外受注高は、欧米における大型工事の受注により、前年同期から大幅に増加しました。

## 2023年度第3四半期（3か月間）における主要受注工事

種別	工事名称	発注者	工事場所
土木	松山自動車道内子工事	西日本高速道路株式会社 四国支社	愛媛県
建築	Rapidus新工場IIM-1（イームワン）	Rapidus株式会社	北海道
建築	自由が丘一丁目29番地区第一種市街地再開発事業	自由が丘一丁目29番地区市街地再開発組合	東京都
建築	千葉市立新病院整備工事	千葉市	千葉県
海外関係会社	KOAマレーシア新工場 新築工事※	KOA Denko Malaysia (KOA株式会社マレーシア現地法人)	マレーシア

※はカジマ アジア パシフィック ホールディングス ピー ティー イー リミテッドの受注工事

- 2023年度第3四半期3か月間の主要受注工事です。
- 国内外において複数の大型工事を受注しています。
- 単体土木事業では、「松山自動車道内子工事」などを受注しました。
- 単体建築事業では、「Rapidus新工場IIM-1（イームワン）」などの生産施設工事や、「自由が丘一丁目29番地区第一種市街地再開発事業」などの大型再開発案件、「千葉市立新病院整備工事」などを受注しています。
- 海外関係会社では、「KOAマレーシア新工場 新築工事」を受注したほか、米国や大洋州においても大型工事を受注しています。

# 2023年度第3四半期 決算実績

2. 業績ハイライト

## 単体・国内関係会社の増収増益を主因に、連結業績は増収、営業増益

### 2023年度第3四半期 決算実績ハイライト

単位：億円

	連結		
	2022年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年同期比
売上高	17,531	19,946	+2,415
営業利益	932	1,021	+88
経常利益	1,212	1,128	△84
親会社株主に帰属する 四半期純利益	820	766	△54
建設受注高	17,461	20,923	+3,461

	単体		国内関係会社		海外関係会社	
	2023年度 第3四半期	前年同期比	2023年度 第3四半期	前年同期比	2023年度 第3四半期	前年同期比
売上高	11,723	+1,543	2,715	+248	6,363	+571
営業利益	740	+165	194	+82	86	△161
経常利益	931	+157	234	+90	106	△314
親会社株主に帰属する 四半期純利益	693	+128	181	+75	35	△240
建設受注高	12,575	+1,238	1,649	+156	7,315	+2,046

(換算レート) 単位:US\$ ¥144.81 ¥149.58

¥149.58

- 単体は、建築事業の売上高増加及び売上総利益率改善に加え、開発事業の物件売却により増収増益
- 国内関係会社は、開発物件の売却が計画どおりに実現したことを主因に増収増益となった
- 海外関係会社は、開発事業における売却益の減少を主因に各段階利益が前年同期を下回った
- 建設受注高は、国内や欧米において大型工事を複数受注し、前年同期を上回った

- 第3四半期決算のハイライトです。
- 単体及び国内関係会社の増収増益を主因に、連結業績は増収となり、営業利益は増益となりました。
- 単体は、建築事業の売上高増加及び売上総利益率改善に加え、開発事業の物件売却により増収増益となりました。
- 国内関係会社は、開発物件の売却が計画どおりに実現したことを主因に増収増益となりました。
- 海外関係会社は、米国などの開発事業における売却益の減少を主因に、各段階利益が前年同期を下回りました。
- 建設受注高は、国内や欧米において大型工事を複数受注し、前年同期を上回る2兆923億円となりました。

## 第3四半期決算は概ね計画どおりであり、通期予想は変更せず

## 2023年度 通期予想ハイライト

単位：億円

	連結		
	2023年度 第3四半期	2023年度 通期予想	進捗率
売上高	19,946	26,100	76.4%
営業利益	1,021	1,440	70.9%
経常利益	1,128	1,530	73.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	766	1,070	71.6%
建設受注高	20,923	26,500	79.0%

2023年度 第3四半期	2023年度 通期予想	国内関係会社		海外関係会社	
		2023年度 第3四半期	2023年度 通期予想	2023年度 第3四半期	2023年度 通期予想
11,723	14,800	2,715	3,600	6,363	9,000
740	990	194	214	86	250
931	1,170	234	260	106	250
693	870	181	200	35	150
12,575	16,300	1,649	2,000	7,315	9,000

(換算レート) 単位:US\$ ¥149.58

¥149.58

¥149.58

¥149.58

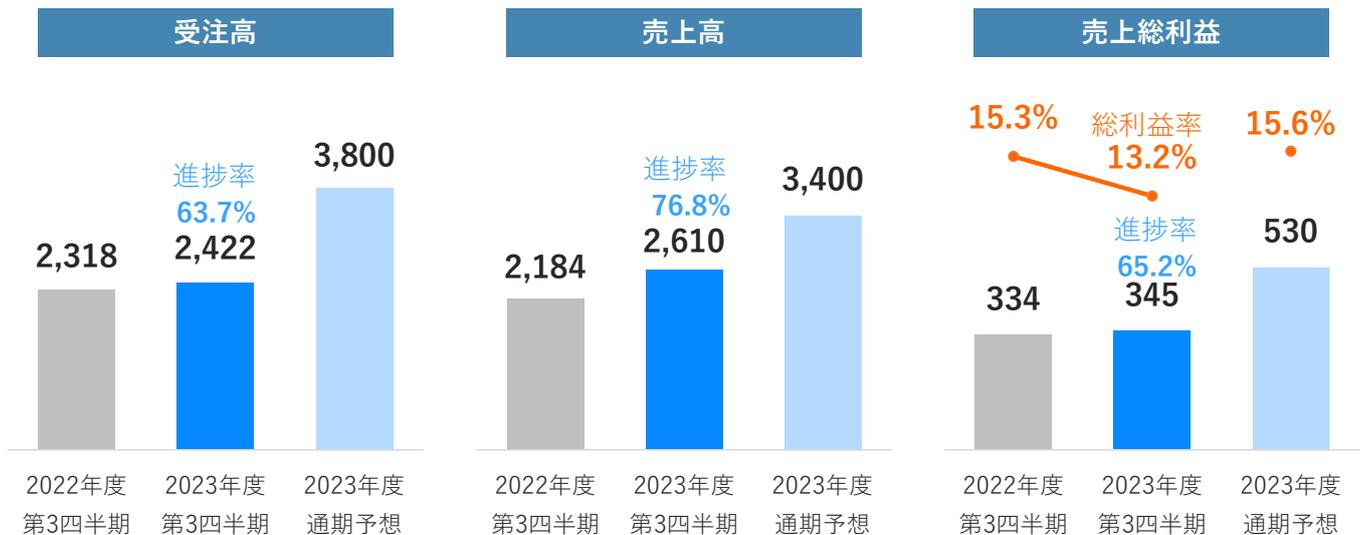
- 2023年11月13日に発表した通期業績予想は変更せず
- 単体・国内関係会社は、通期予想に対して順調に進捗
- 海外関係会社は、第4四半期に米国における開発物件の売却や建設事業の損益改善などにより、通期予想の達成を見込む

- 2023年度の通期予想については、第3四半期決算が概ね計画どおりに進捗していることから、2023年11月13日に発表した予想数値を変更していません。連結売上高は2兆6,100億円、当期純利益は1,070億円を見込んでいます。
- 事業別では、単体・国内関係会社は通期予想に対して順調に進捗しています。
- 海外関係会社は、第4四半期に米国における開発物件の売却や建設事業の損益改善などにより通期予想の達成を見込んでいます。

# 事業別の概況 | 土木事業（単体）

## 3. 事業別の概況

単位：億円



### 2023年度第3四半期

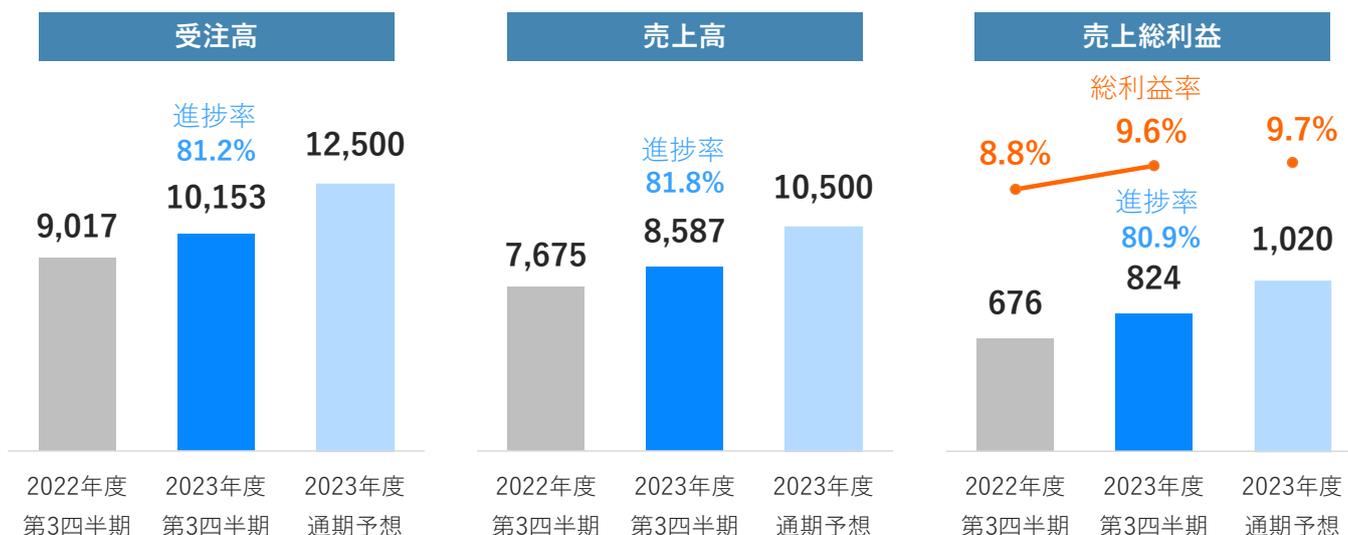
- 受注高は、第4四半期における新規工事の受注や設計変更契約の獲得により、通期予想の達成を見込む
- 売上高は、施工中工事が順調に進捗し、増収となった
- 売上総利益率は、第3四半期までの竣工工事が少なく、設計変更などによる損益改善が小さかったため通期予想を下回るものの、第4四半期に竣工を予定している工事を中心とする改善を見込む

- 続いて、事業別の概況を説明します。最初に、単体の土木事業です。
- 受注高は、前年同期と同水準の2,422億円となりました。第4四半期における新規工事の受注や設計変更契約の獲得により、通期予想の達成を見込んでいます。
- 売上高は、施工中工事が順調に進捗し、前年同期比426億円増収の2,610億円となりました。通期予想の達成を見込んでいます。
- 売上総利益は、前年同期と同水準の345億円となりました。売上総利益率は、第3四半期までの竣工工事が少なく、設計変更などによる損益改善が小さかったため通期予想を下回るものの、第4四半期に竣工を予定している工事を中心に損益の改善を見込んでいます。

# 事業別の概況 | 建築事業（単体）

## 3. 事業別の概況

単位：億円



### 2023年度第3四半期

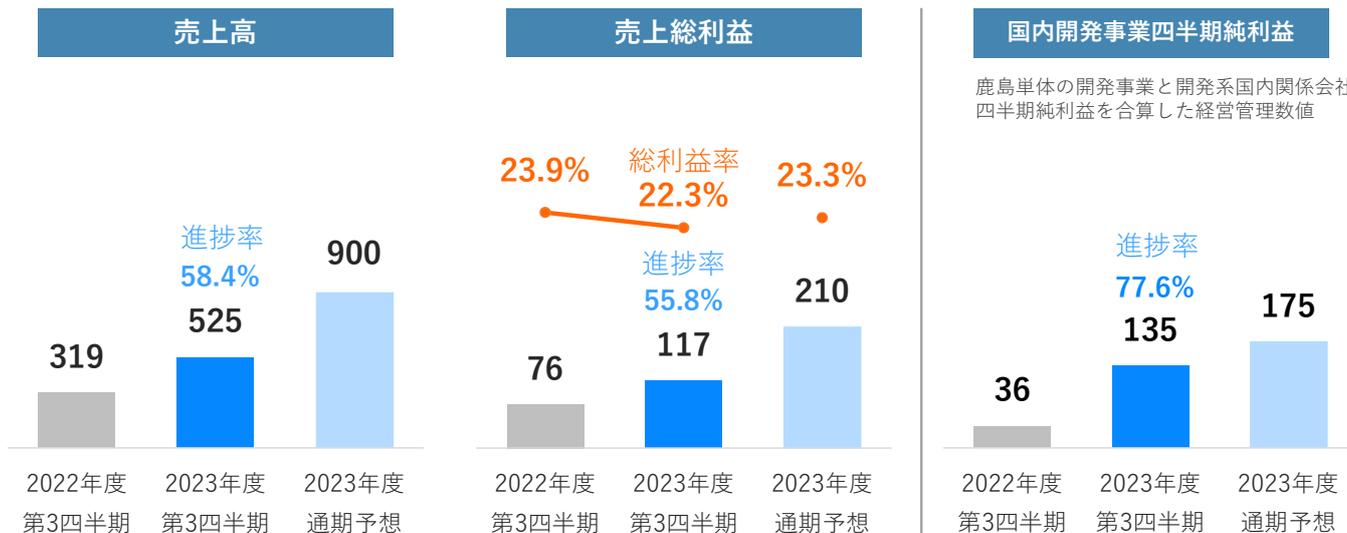
- 受注高は、大型の半導体工場や再開発案件を受注したことを主因に、前年同期を上回った
- 売上高は、施工中工事が順調に進捗し、増収となった
- 売上総利益は、増収に加え売上総利益率が向上したことから前年同期比増益となった

- 単体の建築事業です。
- 受注高は、大型の半導体工場や再開発案件を受注したことを主因に、前年同期を1,135億円上回る1兆153億円となりました。
- 売上高は、施工中工事が順調に進捗し、前年同期比911億円増収の8,587億円となりました。通期予想に対して着実に進捗しています。
- 売上総利益は、増収に加え売上総利益率が向上したことから、前年同期比148億円増益の824億円となりました。売上総利益率は、通期予想と同水準で推移しています。

# 事業別の概況 | 開発事業等（単体）

## 3. 事業別の概況

単位：億円

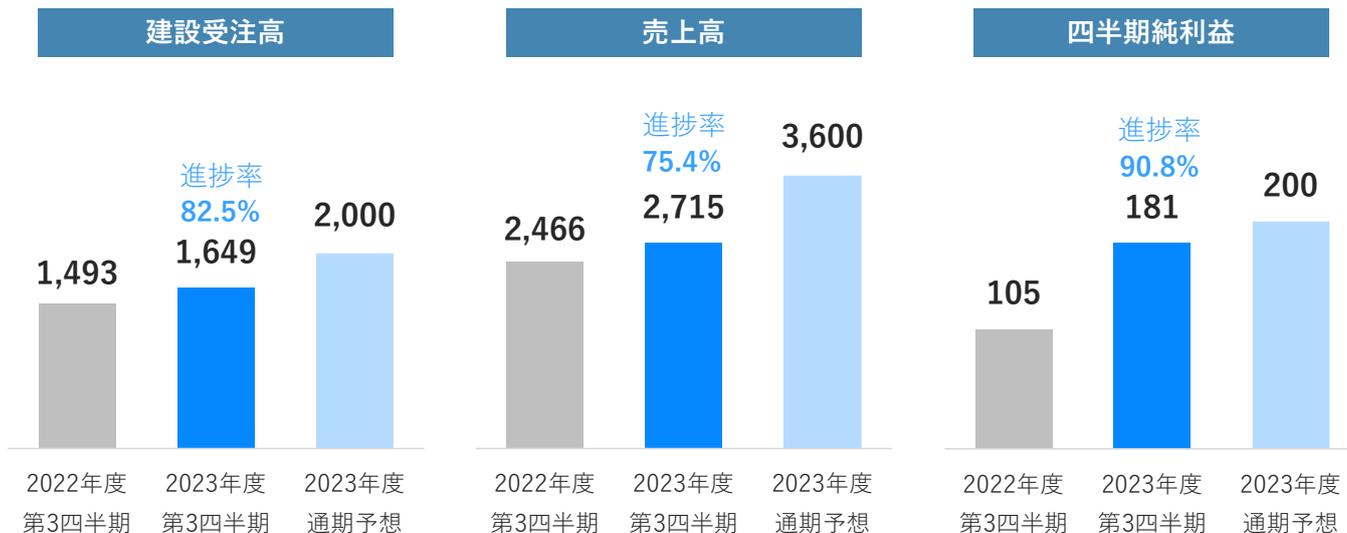


### 2023年度第3四半期

- 売上高、売上総利益は、不動産販売事業における物件売却を主因に前年同期を上回った
- 第4四半期にも複数物件の売却を計画している
- 単体開発事業と開発系国内関係会社の当期純利益の合算値（国内開発事業の経営管理数値）は通期予想175億円の達成を見込む

- 単体の開発事業等です。
- 売上高、売上総利益は、不動産販売事業における物件売却を主因に前年同期を上回りました。
- 第4四半期にも複数物件の売却を計画しています。
- 単体開発事業と開発系国内関係会社の当期純利益を合算した経営管理数値は、通期予想175億円の達成を見込んでいます。

単位：億円

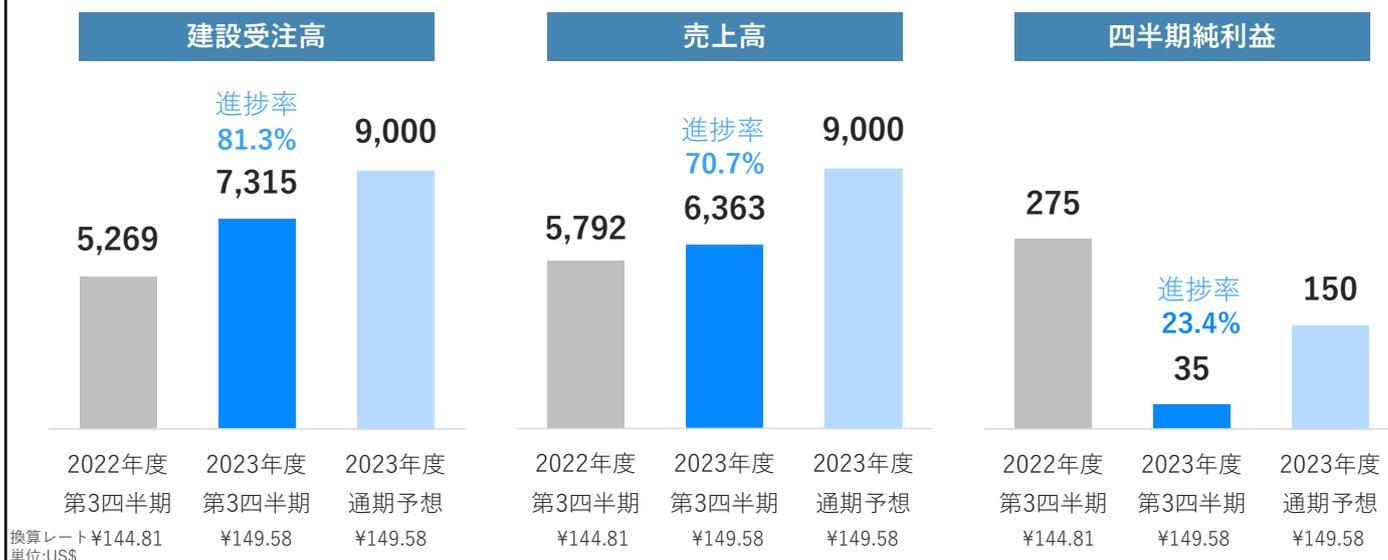


### 2023年度第3四半期

- 建設受注高は、道路工事や設備工事などの受注が増加し、前年同期を上回った
- 売上高・四半期純利益は、開発系関係会社が保有する開発物件の売却や、建設事業の順調な進捗により、前年同期を上回った

- 国内関係会社です。
- 建設受注高は、道路工事や設備工事などの受注が増加し、前年同期を156億円上回る1,649億円となりました。
- 売上高、四半期純利益は、開発系関係会社が保有する開発物件の売却や、建設事業の順調な進捗により前年同期を上回りました。通期予想については達成を見込んでいます。

単位：億円



### 2023年度第3四半期

- 建設受注高は、米国や欧州において大型工事を受注したことなどにより前年同期を上回った
- 売上高は、米国や大洋州における建設事業の売上高増加により増収となった
- 四半期純利益は、開発事業における売却益の減少を主因に前年同期を下回った
- 第4四半期における米国開発物件の売却や建設事業の損益改善などにより、通期予想の達成を見込む

- 海外関係会社です。
- 建設受注高は、米国や欧州において大型工事を受注したことなどにより、前年同期を2,046億円上回る7,315億円となりました。
- 売上高は、米国や大洋州における建設事業の売上高増加により、前年同期比571億円増収の6,363億円となりました。
- 四半期純利益は、開発事業における売却益の減少を主因に前年同期を下回りました。
- 第4四半期における米国開発物件の売却や建設事業の損益改善などにより、通期予想の達成を見込んでいます。

## 海外関係会社 建設等・開発事業別 業績ハイライト

※事業別の数値については内部取引調整前の管理数値

	建設事業等				開発事業			
	2022年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年同期比	2023年度 通期予想	2022年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年同期比	2023年度 通期予想
売上高	4,917	5,538	+620	7,578	1,013	909	△103	1,829
売上総利益	192	210	+18	313	389	273	△115	457
	3.9%	3.8%	△0.1 pt	4.1%	38.4%	30.1%	△8.3 pt	25.0%
営業利益	11	△22	△34	7	252	136	△116	269
営業外損益	19	21	+2	16	155	19	△136	12
（開発事業出資損益）	(0)	(0)	—	(0)	(138)	(45)	(△93)	(29)
経常利益	30	△1	△31	24	408	156	△252	282
特別損益	△0	0	+1	0	7	△0	△7	14
親会社株主に帰属する 当期純利益	10	△14	△24	△4	292	93	△198	198
(換算レート) 単位:US\$	¥144.81	¥149.58		¥149.58	¥144.81	¥149.58		¥149.58

- ・ 通期予想は、建設事業等、開発事業ともに2023年11月13日の公表数値から変更していない
- ・ 建設事業等は、第2四半期に東南アジアにおいて損失計上したものの、損益改善が着実に進んでいる
- ・ 開発事業は、売却益が高水準であった前年同期比で減益となった  
第4四半期の米国開発事業における物件売却などにより、通期予想の達成を見込む

- ・ 海外関係会社の事業別の業績について説明します。
- ・ 通期予想については、建設事業等、開発事業ともに2023年11月13日に公表した数値から変更はありません。
- ・ 建設事業等は、第2四半期に東南アジアにおいて損失を計上しましたが、損益改善が着実に進んでいます。
- ・ 開発事業は、売却益が高水準であった前年同期比で減益となりましたが、第4四半期の米国開発事業における物件売却などにより、通期予想の達成を見込んでいます。

## 政策保有株式の縮減状況について

- 2023年度第2四半期に中期経営計画に掲げた縮減目標に到達
- 第3四半期3か月間にも43億円の政策保有株式を売却し、第4四半期以降も更なる縮減を進めていく

### 縮減状況

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 第3四半期累計	計	中期経営計画
売却銘柄数 (一部売却を含む)	17 銘柄	17 銘柄	20 銘柄	—	—
売却額	148 億円	100 億円	103 億円	352 億円	300 億円以上 (3か年累計)

- 政策保有株式の縮減状況について説明します。
- 2023年度第2四半期末時点で、中期経営計画に掲げた『3年間で300億円以上の売却』の目標に到達しておりますが、第3四半期3か月間でも43億円の売却を実施しており、第4四半期以降も更なる縮減を進めていく方針です。

100年をつくる会社



お問合せ先

鹿島建設株式会社 経営企画部  
コーポレート・コミュニケーショングループ  
E-Mail : [ir@ml.kajima.com](mailto:ir@ml.kajima.com)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。